＜木本やつる植物の群落＞

ツルニチニチソウ群落（A）
トキワツユクサと同様、常緑広葉林内にも繁茂する常緑のつる性多年草群落。トキワツユクサと異なり、茎が木質化し「やぶ」状になる事がある。明るい開放景観にも生育可能。山地を除く全県に広がっている。

ノアサガオ群落（A）
外来のつる植物群落では1年草のアレチウリが県内でも繁茂したが、ノアサガオは熱帯系の常緑多年草で沿海部を中心に空き地や森林を密に被う。面的に他の植物を駆逐する

カミヤツデ群落（B）
台湾、中国原産の常緑低木で県下では真鶴半島、小田原、三浦半島などの沿海部で急速に増えている。根萌芽し純群落を形成する。現在の分布域はまだ限られている。

ニワウルシ群落（B）
夏緑の高木で樹高 10m以上に生長する。カミヤツデ同様、根から萌芽し密な集団を形成する。一端定着すると周囲に面積を広げる。

講演２

外来植物について－神奈川県ブルーリスト外来種（維管束植物）の選定案－

勝山輝男　2020 年 1 月 25 日

1. 侵略的外来種 1 次リストの選定

『神奈川県植物誌 2018』に登載されている国内・国外外来種は **1039 種**ある。他の分類群に比べて、外来種の種数が多く、毎年、新たに記録される外来種も多い。これらの外来種の侵略性を客観的に評価するために、侵略性をスコア化し、侵略的外来種を識別する手法を試みた。具体的には『福岡県の侵略的外来種リスト 2018』（福岡県保健環境研究所環境科学部環境生物課編, 2018）の 13 評価項目（K～W）を用い、各評価項目に該当するものは 1 点、該当しないものは 0 点とし、最大 13 点として侵略性の評価を行った。

K：同属に侵略的外来種がある、有害植物として検疫対象になっている
L：水生植物または湿生植物である
M：つる性、マット状に広がる、高さ２ｍ以上の大型、など被圧して優先種になる
N：アレロパシー活性がある
O：在来種と交雑する、またはその可能性がある
P：窒素固定を行う
Q：切断、耕耘、火入れに耐え、切断片などから繁殖、むしろ拡がる
R：トゲや針を持ち、人を傷つける可能性がある
S：在来種が生育しにくい環境（海浜、干潟、貧栄養地、礫地、渓岩など）に侵入
T：意図的、非意図的に関わらず人間活動で拡がる
U：自然公園など生物多様性重要地域に生育し問題になっている
V：人や動物に有毒または花粉症を引き起こす
W：経済や産業に被害または生活環境被害が報告されている

K～W の 13 評価項目の合計点が 4 点以上の 161 種を侵略的外来種 1 次リストとして選定した。4 点以下であっても、特定外来生物、環境省の生態系に影響を及ぼすおそれのある外来種リスト登載種（対象地域が小笠原・南西諸島は除く）、植生分野で選定された群落の優占種は 1 次リストに選定した。その結果、**184 種が侵略的外来種 1 次リストに選定された。**合計点と選定状況は以下のようになった。1 次リストに選定されなかった、**侵略性が低いと評価された外来種は 855 種**あった。

8 点　「特定外来」からアメリカオオウキクサ、「生態系影響リスト登載種」からシチヘンゲ　累計 2 種

7 点　「特定外来」からオオフサモ、「生態系影響」からオオカナダモ、コカナダモ、ハリエンジュ、ニワウルシ、オランダガラシ、ヒメスイバ、エゾギシギシ、セイタカアワダチソウの 9 種　累計 11 種

6 点　24 種　「特定外来」ではボタンウキクサ、アレチウリ、ナガエツルノゲイトウ、オオカワジシャ、オオハンゴンソウの 5 種、「生態系影響」から 17 種、その他の外来種はキダチコマツナギとワルナスビの 2 種　累計 35 種

5 点　52 種　「特定外来」からミズヒマワリとオオキンケイギク、「生態系影響」は 28

種、その他が 22 種　累計 87 種

4 点　74 種　「生態系影響」から 40 種、その他が 34 種　累計 161 種

3 点　203 種中 21 種選定　「特定外来」からナルトサワギク、「生態系影響」から 19 種、タチスズメノヒエ（植生でタチスズメノヒエ群落を選定）　累計 182 種

2 点　303 種中 2 種選定　「生態系影響」からコウリンタンポポ、キササゲ（植生でキササゲ群落を選定）　累計 184 種を侵略的外来種 1 次リストとして選定

なお、合計点 1 点が 296 種、0 点は 76 種あった。184 種のうち、特定外来は 10 種、生態系被害防止外来種は 114 種、その他は 60 種であった。

2. 防除ランクの選定

侵略的外来種 1 次リストから 184 種から、A ランク（防除が必要でそれが可能）、B ランク(蔓延状況にあり、ホットスポットや保全地域で防除)を以下の基準で選定した。

特定外来種（県内で記録されたものに限る）10 種は A ランク、特手外来ではないが、評価点が高く（6 以上）、駆除が必要で、それが可能な種は A ランク（アマゾントチカガミ、ホテイアオイ、ツルニチニチソウ、ノアサガオ、オオバナイトタヌキモ、シチヘンゲ）、健康被害が懸念されるもの（麻薬の原料になるので栽培禁止、毒性が強いなど）で駆除が可能なものは A ランク（アツミゲシ、ドクニンジン）。**A ランクは計 18 種。**

評価点が高く（6 以上）、駆除が望ましいが、蔓延していて県内全域での駆除は難しくホットスポットなど、限られた場所では駆除が可能なものを B ランクとした。評価点は 6 未満であるが、すでに仙石原などの重要な区域に侵入していて駆除対象になっている種は B ランクとした。また、評価点が高く（5 以上）、環境省の生態系に影響を及ぼすおそれのある外来種リストに登載されている種、植生分野の主要構成種は B ランクとした。**B ランクは計 64 種。**

リストに選定され、A や B ランクにならなかった外来種 **102 種は C ランク**（要注意種）とした。

ノアサガオ

シチヘンゲ

ツルニチニチソウ